

平成 29年 12月 9日

サイエンス・ダイアログ 実施報告書

1. 学校名・担当者氏名: 香川県立高松桜井高等学校 八田 由美
2. 講師氏名: Dr. Md. ASADUZZAMAN (Mr.)
3. 同行者氏名: 浅尾 俊樹 先生
4. 実施日時: 平成 29年 12月 8日 (金) 15:45 ~ 17:15
5. 参加生徒: 1年生 15人、2年生 9人、3年生 1人 (合計 25人)
備考: 普通科の生徒で受講希望者
6. 講演題目: (英文) Autotoxicity in plants
(和文) 植物の自家中毒
7. 講演概要:・講師の自己紹介
 バングラデシュの地理・歴史・自然・文化などの紹介
 バングラデシュと日本との関係について
 研究について
 研究の動機:バングラデシュでは米の二毛作が行われているが、同じ場所に3度作ろうとすると、自家中毒の影響で収量が落ちる。これをどうにかしたい。
 日本での研究内容の説明:水耕栽培などコントロールが容易な環境で様々な条件を試すことで植物の自家中毒による生長への影響を少なくする方法を探している。
 高校生に向けてのメッセージ
 日常の中に疑問を見つけて、それを解決する方法をいろいろと考えて試してみることに
8. 使用言語: 英語
9. 講演形式:
 - (1)講演時間 70分 質疑応答時間 20分
 - (2)講演方法:
プロジェクター使用による講演
 - (3)通訳:
同行者によるサポート

(4)事前学習時使用教材(事前学習を行った場合のみ)

講師より事前に送っていただいた用語集を高校の担当者と訳、解説を加え、事前に生徒に配布した。

10. 学校からの支給経費(該当がある場合): 交通費 宿泊費 謝金

11. その他特筆すべき事項:

講師の方から、途中でわからなところがあれば遠慮せずに質問してほしいと生徒に対して呼びかけていただき、図なども多用して丁寧に説明していただいた。また、難解な内容については同行者の浅尾先生から専門用語をかみ砕いて説明していただき生徒の理解の助けになったと思う。

植物の自家中毒という現象について、研究の一端をお話いただいたが、非常に興味深い現象で、講義のあと質問していた生徒もいた。

英語で外国の方とコミュニケーションをとることに興味を持っている生徒もおり、講師の方に日本での生活などについて尋ねていた。生徒にとっていろいろな面で好奇心を喚起する企画になったと思う。